

2020 年度受賞者の活動報告

この度はご支援を賜り改めまして誠にありがとうございます。この一年で行ってきた活動をご報告させていただきます。

正課では昨年からは臨床実習が始まり、京都大学医学部附属病院や西日本各所の病院にて実習をさせていただきました。患者の皆様、臨床現場の医療従事者の方々から貴重な御教示を賜り、基礎領域と臨床領域の相互還元を追究したいという思いを新たにしました。その思いを胸に、この一年は本学大学院医学研究科附属ゲノム医学センターにてオミックス研究を継続して参りました。また大阪大学や国立循環器病研究センター、TXP Medical といった研究機関で基礎・臨床研究について勉強させていただく機会を賜り見聞を広めて参りました。またゲノム科学分野で世界を牽引する英国 Wellcome Sanger Institute の研究プロジェクトに参加させていただいております。

これらの研究活動のうち特に、本学ゲノム医学センターにてご指導を賜った、HTLV-1 関連脊髄症という HTLV-1 ウイルスを原因とした神経難病の研究についてご紹介させていただきます。臨床検体を用いたウイルスゲノムの大規模解析を行い、同疾患の発症リスクとなるウイルスゲノム変異の同定および、その他の発症因子を統合した発症リスク予測モデルの構築を行いました。この研究については第 7 回日本 HTLV-1 学会にて発表させていただき（「HTLV-1 プロウイルスゲノム変異の大規模解析による HAM/TSP 発症リスク予測モデルの構築」）、同学会が学術的に優れた研究を行った 40 歳未満の若手研究者に授ける Young Investigator Award を賜ることができました。貴重な検体を活用させていただくことで、将来的に同難病の早期発見や病態機序の更なる解明に寄与し得る研究成果が得られたことに嬉しさと緊張感を覚えると共に、批判的思考を忘れず慎重に検証と探究を進めていきたいと考えております。

至らない点ばかりで日々歯痒さや不甲斐なさを感じておりますが、今後も本学やその他の研究機関でご指導を賜り学究に努め、良い研究を目標に精進していきたいと切に思います。

また昨年末には、本学の総長座談会にお招きいただきました。アカデミアにおけるジェンダー格差や本学における制度的取り組みについて、湊総長及び女性研究者のお二人と共に議論を交わし考える機会となりました。

全てのジェンダーの人が存分に学究に励むことができる環境に寄与することを目指して試行錯誤を続けていきたいと共に、前記のような形を含めた発信にも積極的に携わらせていただきたいと考えています。

上述の活動のためには久能賞で賜った奨励金の一部を活用させていただいた他、このような賞を賜ったことそれ自体が活動の上で励みとなりました。寄附者の久能悠子様及び関係者の皆様に、この場をお借りし改めて衷心より御礼申し上げます。

医学部医学科 北田 せり